

- 奈良県の農地は水田が71%を占め、担い手の兼業化、高齢化等により水稲栽培が主となっている。近年の米価低迷により農家所得が減少し水稲に代わる高収益作物導入による収益の向上が課題。
- 有望な品目を検索するため試験圃を設置した結果、「加工業務用キャベツ」の導入を提案、栽培マニュアルを作成し技術支援を実施するとともに、実需者との契約栽培を推進するための支援、省力化機械の導入を行った。
- その結果、加工業務用キャベツの作付け面積が10haに拡大した。

具体的な成果

1 加工業務用キャベツ等作付面積の増加

■ 兼業農家や新規の生産希望者の早期育成(マニュアルの提供などによる)により作付面積及び、取り組み生産者数が増加。

① 作付面積

3ha → 10ha

③ 取り組み生産者数

若干名 → 約80名

2 省力化機械の導入による作業時間短縮

■ 県単独補助事業により、JAならけんが施肥機付き二軸ロータリーを導入。その機械を生産者にリースすることで、定植までの作業時間が約1/3に短縮。雨天による定植遅れのリスクを低減することで、安定した収量を確保することに寄与。

① 10a当たり作業時間

33時間 → 13時間

② 施肥機つき二軸ロータリー利用面積

H28年 0ha → H29年 1ha



3 契約栽培による経営安定化

■ 一定価格での契約取引が開始され、生産者の経営が安定。

■ 新規生産希望者が取り組みやすい品目として定着。



普及指導員の活動

平成27年

■ 新規導入作物の検討を行うため、JA、各振興事務所、実需者で新品目の検討を行い、加工業務用野菜の数品目を試作、収益性を調査。

■ 加工業務用キャベツの試験的な導入を決定。

平成28年

■ 加工業務用キャベツの実証ほの設置、栽培マニュアルの作成、先進地視察等により、加工業務用キャベツが地域に定着。

■ 生産者と実需者とのマッチングにより契約栽培を推進。

平成29年

■ 施肥機付き二軸ロータリーの導入により適期定植を指導、生産安定を図る。さらに年2回の研修会、現地巡回指導により、細かな指導を実施。

普及指導員だからできたこと

・ 専門技術を持ち、現場の圃場条件や気象条件を知る普及指導員だからこそ、新規導入作物を提案し、地域に適した栽培方法を定着させることが可能。

・ 日頃から信頼関係を築いている地域の農業者、JA、研究機関、民間企業等の関係者を結びつけ、新規品目の育成に向けた産地全体の取り組みを進めることができた。

水稲に代わる高収益性野菜の導入推進

活動期間：平成27～29年度

1. 取組の背景

奈良県では水田が農地の約71%を占める。その水田農業の担い手の兼業化、高齢化の進展により、水稲主体の営農が大半を占めている中、米価低迷により、今後、生産意欲の減退による水田の遊休農地化が懸念される。奈良県農業を持続可能なものとするには、水稲に代わる収益性の高い作物導入により、水田の有効利用を図り、農家の収益向上を目指す必要がある。

2. 活動内容（詳細）

県単事業「水稲に代わる高生産性作物導入推進事業」を利用し、野菜の加工・販売を手がける業者を外部有識者として関係機関（JAならけん、各農林振興事務所）の検討会に招き、新規品目導入及び既存品目の面積拡大に向けて、意見・情報交換会を行った。また、複数の品目を実証圃で試作し導入の可能性を検証した。その結果、水田において、機械化と省力化が可能で、水稲に比べて収益性が高く、地域の環境に適した作物として、加工業務用キャベツを有望品目と選定し、各事務所管内で生産拡大のための現地実証圃を設置し、生産性、収益性について調査した。その結果を元に奈良県版加工業務用キャベツの栽培マニュアルを作成し、生産希望者への講習会の資料としている。



加工用キャベツ生産圃場

また平成29年度からは、省力化対策として、県単補助事業により、JAならけんに施肥機付き二軸成形ロータリーを導入した。JAならけんが本機械を農家にリースすることで、定植までの圃場準備作業の省力化を図った。

3. 具体的な成果（詳細）

JAならけんと加工業務用キャベツの実需者である、県産野菜を希望するカット野菜加工業者とのマッチングにより、仮渡し単価の設定や出荷規格の簡素化等が進んだ。個別農家にも県内食品加工業者とのマッチングを行い、契約栽培への取り組みが進んだ。また、各振興事務所管内の現地実証圃の設置や現場の巡回指導等を、JAならけんや各地区の集落営農組織などと連携し、普及支援活動を行った結果、県下の加工業務用キャベツの作付面積は4haから9haまで拡大した。



施肥機付き二軸ロータリー

また、施肥機付き二軸成形ロータリーの導入により、定植前の圃場準備にかかる時間を約1/3にすることが可能となり、雨天続きによる定植時期の遅延リスクを下げる事ができた。

4. 農家等からの評価・コメント（田原本町G氏）

出荷先（食品加工業者）では、生産物すべてを買い取ってもらえることや、仮渡し単価が決まっているので収益の見込みがわかりやすく、安心して取り組める。また、技術面で迷ったときはすぐに相談に乗ってくれる普及指導員がいることも安心感が大きい。

5. 普及指導員のコメント

（農業水産振興課・農業技術支援係・主任主査 吉村あみ）

若手就農者のG氏は、食品加工業と兼業で集落営農の担い手の一人として農業に携わっていたが、このプロジェクトを機に、農業経営部門の収益を向上させるため、加工業務用キャベツの生産に初めて取り組んだ。普及指導員として、いつでも相談できる存在として、こまめに連絡をとることで、信頼関係を築き、排水対策等で苦労もあったが、その都度対策を進めてきた。G氏は、今後も野菜の作付面積を拡大すべく、半自動定植機を自己資金で導入。作付け面積を拡大している。



半自動定植機の作業風景

このように、産地の振興には、兼業農家や新規就農者が初めての取り組みを成功させることのできるような、生産、出荷、流通までの仕組み作りときめ細やかなサポート体制の構築が重要であると考えます。

6. 現状・今後の展開等

J Aならけんは「振興作物」を設定し、その中に加工業務用キャベツ、加工業務用タマネギを設定、生産拡大を図っている。現在では加工業務用キャベツ、タマネギを合わせて10ha以上が水稲に代わり作付けされている。今後は普及一般活動のなかでこれらの生産振興を支援し、水稲に代わる高収益性野菜への作目転換による生産者の収益向上を目指し、奈良県の持続的な農業振興に寄与する。



加工業務用野菜のシンポジウム